

平成 24 年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(平山地区)

開催日時	平成 24 年 10 月 19 日 (金) 午後 7 時から午後 9 時	天気 くもり
場 所	平山集会所	
町民参加者	男 24 人 女 8 人 (40 代以下 2 人、50 代 3 人、60 代以上 27 人)	
町出席者	町長、副町長、教育長、政策秘書課長、企画財政課長、総務防災課長、環境農林課長、商工観光課長、事務局 2 人	

出席者から出された主な意見や提案

《テーマ：防災対策》

- 自主防災組織に関する説明では、現実とはかけ離れておりギャップを感じる。
- 町職員の非常時における夜間対応はどのようになっているのか。職員が役場に到着するまでの時間はどの程度か。
- 自主防災組織を作るにしても町では啓発することが必要だろう。今日の説明だけをもって組織を作ってくださいでは足りない。
- マニュアルを作って自治会に投げかけるだけではいけない。マニュアルはあくまで叩き台として、自治会ごとにその地域に則した自主防災組織とするため、議論をしながら組織作りをしていく必要があると考える。
- 消防広域化の話は以前からあったが、話が進まなかった中で今回は決まった。今まで、何が障害となっていたのかを聞きたい。
- 自主防災組織のリーダーは自治会長になっているが自治会長にも任期があり現実的ではないと思う。

《テーマ：自治基本条例》

- 自治基本条例についての説明を聞くと、今までの国と町との関係が、町と自治会との関係に似ているのではないだろうか。

《地域テーマ：ごみ対策》

- カラスがごみを散らかす。カラス除けネットは 4 月に支給されているが、既にカラスが穴を開けてしまい効果がない。カラスに関してごみを出す側の意識が希薄ではないだろうかと思う。
- カラスの習性についてインターネットで調べたところ、カラスは買物袋が透けていると見える

らしい。マヨネーズ容器等は空の容器でも、それがマヨネーズの容器だと分かるとその一箇所に集中するとあった。

○6月頃にカラスが巣立つが、親カラスは子のカラスを連れてごみをつついていた。ネットの中に餌があるため穴を開ければ餌が取れるということを教えているようだった。インターネットで確認したところ、親カラスは餌の採り方について教育をしているということだった。そこでカラスが巣立つ時期にごみの出し方はこのようにする等の広報をしてもらえれば良いのではと思う。6月頃は蒸し暑く生ごみが臭うので、皆さんにも協力してもらえるように町での周知をお願いしたい。

《テーマ：その他》

○酒匂川の河床が年々上がっている。永安橋の下の護岸対策として県が鉄板を張ってくれたが台風で洗われてしまった。県に対応するよう町から伝えてもらいたい。

○JAが主催したワナ講習会には地区から5名程が行ったが、説明では捕獲した動物を処理するには小動物でも3,000円程度かかるとのことだった。個人でこれらの対応することはできず、町を挙げて、自治会を挙げて対応しなければならないと思う。

○猟友会に相談したところ、猟友会員も高齢化で会員数が減少し全てに対処できないとの話だった。

○箱ワナを設置しても捕獲したら一度ワナから出してからでなければ処分できないとはどういうことか。